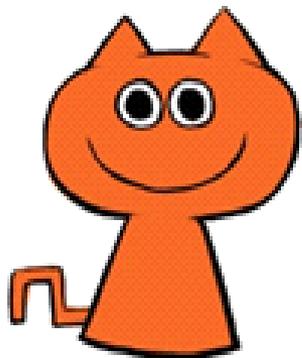


◎不安に寄り添う政治のあり方勉強会
コロナ禍で生活困窮、社会的孤立を
支える豊中市社会福祉協議会の現場から



マスコットキャ
ラクター“ビーのん”
よろしくね！！



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 勝部麗子

3つの命のリスクとの闘い

▶ コロナ感染症による死

⇒ エッセンシャルワーカーの実態

▶ コロナで減収した人の自殺

⇒ コロナ特例貸付の300万人を早期に生活再建を
非課税世帯が免除となったが、重い返済負担
10年返済を迫り生活保護が拡大する恐れ

*むしろ生活再建を促す困窮者支援の強化

⇒ 子どもの貧困の拡大 学費・子育て給付金
貧困の連鎖を断ち切る

▶ コロナで地域のつながりを失った人の孤独死

⇒ 外出自粛で高齢者が弱る・ボランティアも弱る

全国の社会福祉協議会は今

緊急小口資金 総合福祉資金 への対応

...コロナの影響で減収した人への貸付

この12月31日で緊急小口資金貸付	5087件
総合福祉資金貸付件数	3947件
総合延長	2055件
総合 再貸付	2790件
食材希望希望	1803件
住居確保給付金	206件 *市が実施

飲食、イベント、観光、タクシー、様々な教室の先生、美容師、俳優、格闘家、建設業等

豊中では毎日100件を超える相談

すでに相談は10000件を超えて

ゴールデンウィークも年末も休日も返上で支えてきた

⇒一人も取りこぼさない活動を進めてきた

毎日100人も の相談12000世帯以上 外国人も多く来会された



コロナ貧困の特徴

▶ リーマンショックとは違う

リーマン主に製造業の派遣切り

コロナは飲食・インバウンド・イベント、観光などの
自営業に被害が集中

⇒ コロナがおさまれば一定の収入が見込まれる

例) ローンを組んでマンション購入

自家用車で営業に使っている

⇒廃業してしまうとまた元の商売を行うために

はすごくハードルが上がる

今まで生活困窮と無縁の人も多い

貸付が途絶える人たちの支援

そもそも自営業...別の仕事に変わりたくない
副業や緊急雇用策があれば仕事をしたい
生活保護になるくらいなら死んだほうがましだとい
う

⇒生活保護は病気や高齢により働けない人
が受けるものという考え

⇒仕事さえあれば働ける人たち

身ぐるみはがす生活保護になじまない

⇒自己責任論と生活保護のバッシングがひどさ

緊急小口資金・総合福祉資金の返済

- ▶ そもそも給付同然の貸し付けであるという政治家のPR
- ▶ 借りたものは返さないとかかんからもう首をくくるという人を説得
⇒生きるためにお金を借りてほしいと他の施策がない中説得

償還は

一年後非課税などの状態であれば一括免除というフレーズだった

*非課税の免除は一定評価できるが、月々の返済を考えると非課税ぎりぎりの人は生活保護以下の生活になる



例	単身世帯	非課税	8.9万円	生活保護13万円	家賃含む
	標準家庭		20万円	25万円	家賃含む

*コロナの減収はコロナの災害のようなもの*そもそも長引きすぎ
今もなお、生活再建できない中で返済だけをしてい行くのはどうか

小口・総合福祉資金・延長・再貸付の返済が続くと何が起こるか。

- ▶ 借金返済で教育資金などの本来の低所得者向けの他の貸付が困難になる
貧困の連鎖が広がる

- ▶ 経済が再建できないまま生活保護になる人が増える

◎200万円の返済を続けることで生活保護へと追い込むと

生活保護は単身で年間医療費も含むと200万円

生活保護は平均で6.4年 1350万円必要となる

標準世帯で 2280万円必要となる

*さらに債務整理などこれまでの借金も返済できなくなっていく

*償還業務に莫大な費用と労力がかかる

例 生活保護基準に二万円を足した世帯まで引き上げる必要がある

母子世帯などは免除にしてはどうか

小手先ではこの国は二極化して大貧困社会に陥ってしまう

家を失った人が増えている 早朝からのアウトリーチ



家を失った人の支援

- ▶ ネットカフェが緊急事態宣言で閉鎖され路上生活に
- ▶ 友人宅にいたが、店の持っていた寮だったため家を失う
- ▶ 家賃滞納で住居を失った 多数
- ▶ 会社の寮にいたが、会社の収入がなくなり、仕事をやめると家も失った
- ▶ コロナの影響で家賃が払えなくなり、夜勤の仕事を始めて夜は泊まれるが昼間行くところがない
- ▶ 離婚して家を出たが、泊まるところがなくなった
- ▶ DVで逃げてきたが家がない
- ▶ 離婚したかがお金がなくて家を出れない
- ▶ ローンが支払えない 売却しないと生活保護も難しい

まとめ 正しさより優しさを

- ▶ コロナ貧困でつながった貸付の対象者300万人を誰一人取り残さない相談支援を行っていくためには伴走型の支援を引き続きおこなっていくことが大切

社会福祉協議会・自立相談支援機関に常勤の相談支援員の増員及び処遇改善を

- ▶ 一割しか給付金にたどり着けない 届かない給付
- ▶ 生活再建へ重い返済負担

→すべての人がコロナ終息後元の生活に早く戻れるような救済策を10年間も返済で縛ってはいは希望がない

(債務管理にも莫大な事務費をかけるのではなく返済免除を行い自立支援相談を受けてもらい早期再建をさせる)

- ▶ 多くの世帯が社会的孤立した状態で借金まみれになっている 孤立化対策も急務
- ▶ 外国人労働者の実態調査と社会保障の対象に

豊中社協独自のフードバンク 困窮世帯など 10000世帯に



食材支援プロジェクト

外国人にも学生にも子供たちにも困窮者にも



生活困窮者支援の相談から見えてきたもの

例えば…

夏休み体重の減る子供たち

コロナで減収して塾や習い事ができなくなった

ライフラインが止められる世帯の子供

家の中が片づけられず、ゴミが散乱している

親子でDVで逃げてきた家族の生活支援

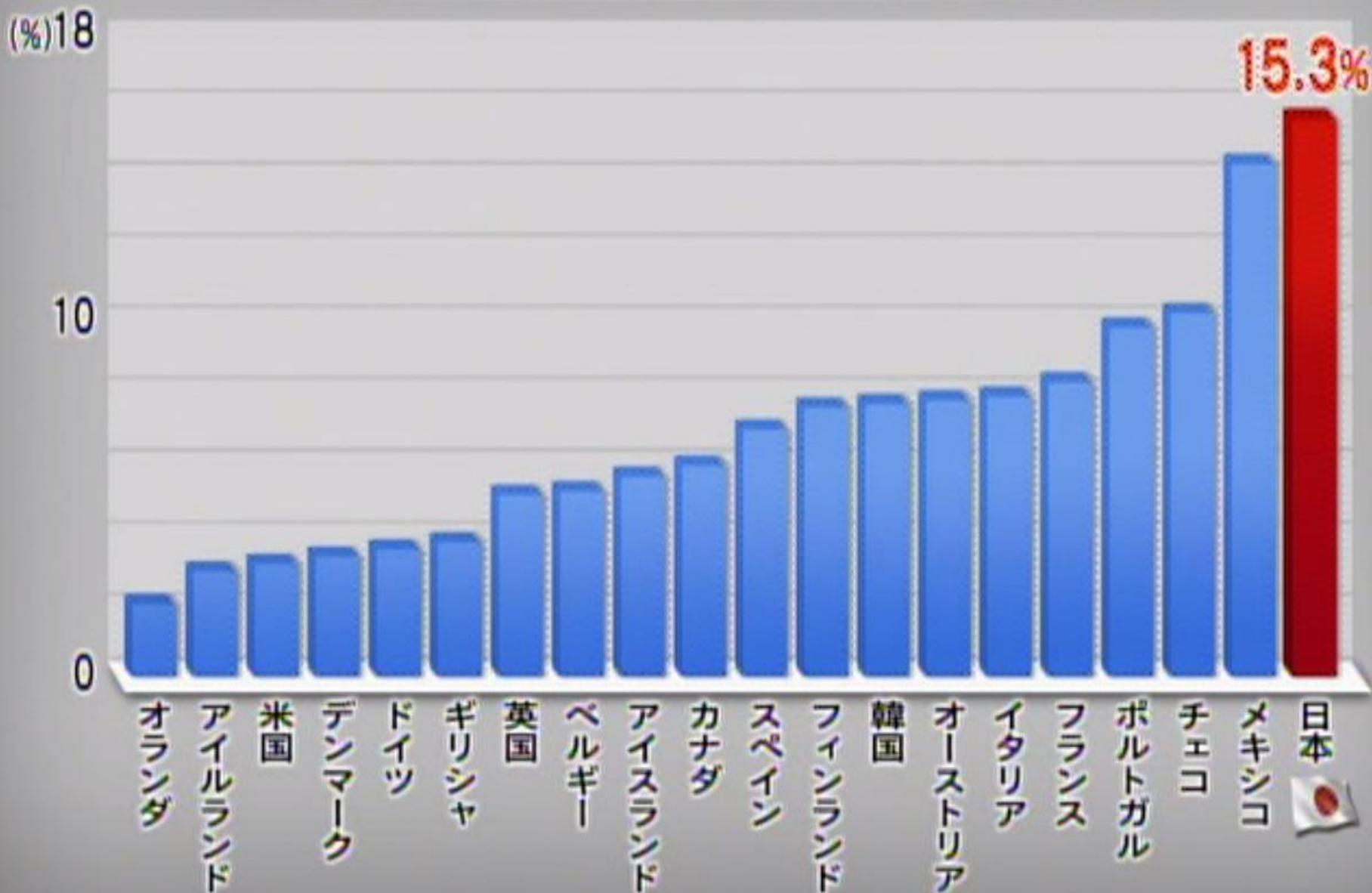
外国にルーツのある子供たち

夜間留守番をしている子供たち

ヤングケアラーの子どもたち

など

社会的孤立の状況 (OECD 2005年)



孤独を感じている子ども(15歳)

(%)

30

20

10

0



子どもの貧困を支える3つの支援

▶ 経済的貧困

子育て給付

教育無償化

▶ 人間関係の貧困

子どもの居場所づくり

喜ばれるアウトリーチ 宅食

▶ 文化的貧困(貧困の連鎖)・ヤングケアラー支援

生活支援・家事支援ヘルパーなどの創設

OSSWとCSWの役割について

SSW

- ・教員に子どもの家庭の福祉課題の発見や気づきを促す
- ・校内体制を整えて外部支援などの連携を図る

(課題)

- ・一年契約である
- ・社会資源の把握や地域とのつながりづくりなどまでは行いにくい
- ・一週間一回程度4時間程度の勤務体制であり、継続支援や時間外での対応困難

連携



- ・連絡会(年4回)、モデル校での懇談会
- ・学校からの要請でケース会議

CSW

- ・生活支援や地域でのネットワークがあることから具体的な支援を行える(例:家の片づけ、登校支援、手続き支援(外国人含む)、通院支援、学習支援等)
- ・宅食などを行っていることから家庭支援へのアプローチがしやすい(子ども食堂などへのつながり、主任児童委員との見守りネットワークの構築等)

(課題)

- ・学校内からのSOSで出ないとなかなか問題発見が難しい

CSW、学校、SSWの連携で支えることができた家庭の事例

- ▶ 朝起きられず学校に行けない

学校→社協へ相談

CSW→宅食で信頼関係を作り困りごとを把握

→登録ボランティア等による登校支援

- ▶ 家が片付けられない、衣類が臭う

学校・SSW→社協へ相談

CSW→こども食堂や野菜の収穫体験で信頼関係を作り支援を受け入れてもらえる機会を待つ

→エンゼルヘルパーによる洗濯の支援

- ▶ 外国にルーツのある親子が生活習慣等で困っている

学校→社協へ相談

CSW→宅食などで信頼関係を作り課題を聞き出す

→困りごとを整理し、必要なサービスなどにつなぐ



子どもの居場所づくり地域福祉モデル事業

～子どもの居場所ネットワークの構築～

【内容】

子ども食堂・フリータイム・
学習支援（学生ボランティア）

《小学校区レベル》

「子どもたちの居場所」

一人ぼっちをつくらない
生活力をつける
自己肯定感を高める
自分の役割を感じられる

【実施主体】

校区福祉委員会

【実施主体】
社会福祉法人

《圏域レベル》

※市内7圏域

「福祉施設を中心にした
トワイライトステイ」

施設の社会貢献事業
地域で支えきれない子どもの支援

【内容】

子ども食堂・入浴・学習支援

《社会福祉協議会》
コンセプトの共有
フードバンクの構築
学習会の実施

《民間企業・NPOなど
の活動団体レベル》

「民間性・専門性を活かした支援」

子どもの貧困対策
家庭の経済状況による学力格差の解消

社会福祉法人あいわ会と協働でこ
ども宅食をスタート
支援中の80世帯に配食
8月には大人食堂実施



わいわい子ども食堂は大学生ボランティアと学習支援に形を変えて



今、地域では

- ▶ 第6波で相談急増
- ▶ ホームレスが増えている
- ▶ 見えなかった虐待が地域活動再開とともに見えてくる
- ▶ 依存症の課題
- ▶ 孤独死など
- ▶ 地域活動への不安
- ▶ 外国人の技能修習生の課題

ぐんぐん元気塾 人数を半分にまたは会場を倍の 大きさに変えて 茶話会なしに

...



講座は動画配信で...・



友愛訪問

お便りや七夕の笹やうちわ等
をもって短時間の玄関で



定年後の男性が宅地で農業を実施

豊中あぐり



豊中あぐり野菜販売 屋外での移動販売は距離を取って... 屋内ではフェースシールドで...



屋外でテイクアウト 食事は手作りから業者弁当に



テイクアウト方式 手作り弁当から業者弁当で



会食会から配食へ孤立化防止 手作り弁当は業者へ

2020年(令和2年)4月12日 日曜日

外出制限 高齢者孤立

配食サービス 電話相談対応 「集わずにつながる」模索

物忘れ進む

発想の転換



大阪府豊中市社会福祉協議会の配食サービスを受ける女性

前払いの

新出のコロナウイルスの感染拡大に伴い、不要不急の外出を控えることが求められ、高齢者が孤立化の危険にさらされている。自治体の関係者や民間企業、ボランティア団体などが連携し、高齢者の孤立化を防ぐための取り組みを進めている。大阪府豊中市社会福祉協議会(以下「協議会」)は、高齢者の孤立化を防ぐための取り組みとして、配食サービスを提供している。このサービスは、高齢者が自宅に居ながら、手作りの弁当やおかずを業者から受け取る仕組みだ。協議会では、高齢者の孤立化を防ぐための取り組みとして、配食サービスを提供している。このサービスは、高齢者が自宅に居ながら、手作りの弁当やおかずを業者から受け取る仕組みだ。協議会では、高齢者の孤立化を防ぐための取り組みとして、配食サービスを提供している。このサービスは、高齢者が自宅に居ながら、手作りの弁当やおかずを業者から受け取る仕組みだ。

会食会からキッチンカーへ



外出自粛で起きたこと

- ▶ 見守りが減ること虐待などの発見が減る
- ▶ 高齢者が弱る・孤独死が起こる・自殺者が増える
- ▶ ボランティア自身が弱る...社会参加が介護予防だった証明
- ▶ コロナ警察のような人たちが現れ、住民が分断
- ▶ ワクチン接種の有無による分断



○アフターコロナで地域の担い手が弱ってしまっている

○本当の意味で一億総活躍を

すべての人に居場所と役割を実現する

⇒地域共生社会の実現